

国立民族学博物館の収蔵品 ③4

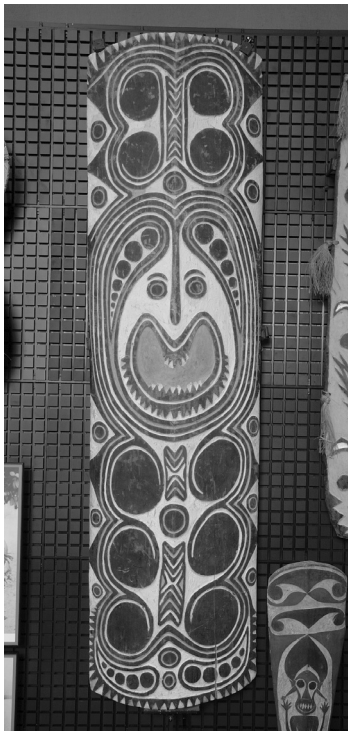
魅せる武器



人肉食用フォーク（国立民族学博物館蔵）

本館の展示場の中でオセアニア地域展示の特徴といえ、なんであるのか。人類が太平洋の海の世界にのりだし、その環境に適応することによって生み出してきたさまざまな道具などのほか、沖縄海洋博のために遠くミクロネシアのサタウル島から沖縄まで航海したチェエメ二号などは、たしかに大きな目玉となっている。その一方で実は館員にもあまり知られていないことであるが、オセアニア展示場には、武器などの戦争に関する標本資料が比較的豊富にあるのである。オセアニア地域の文化が、ほかに比べて特別暴力的であるということはないので、これは展示の改修にかかわった私にも意外なことであった。

オーストラリアの武器として有名なブーメランのほか、盾、槍、弓矢、棍棒などオセアニア以外の地域でもみられる武器までがそろっている。それ以外で世間的な知名度は劣るが珍しい標本としては、ソロモン諸島の捕人具（人を捕まえるための首輪のような道具）や、フィジーの人肉食用フォーク（食人慣行のあった時代の道具。いまでは観



盾（国立民族学博物館蔵）



棍棒（国立民族学博物館蔵）

光客向けの土産物となっている）などを目にするができる。

棍棒は、武器の種類としてはありふれたものである。ただしオセアニア展示場にあるものは違う。フィジーの棍棒は、殺傷の目的や対象に応じて多様な形象を発展させており、ひととき洗練していることでも知られている。その美しさとまがまがしさに魅せられてか、かのスターウォーズのタスケンレイダーが使っている武器は、真偽のほどはさておきフィジーのトトキアと呼ばれる棍棒がモデルではないかと一部で噂されているほどである。

最後に盾を紹介したい。パプアニューギニアのセピック河流域は、オセアニアにおいても豊かな民俗芸術が咲いた地域として知られている。仮面、祖先像などは、色鮮やかでその独特なデザインとあいまってかねてより人気が高い。未開イメージを喚起する側面があるのは事実である。しかしそれにとどまらず、いまではナショナルマスケツフェスティバルが開催されているように、仮面はパプアニューギニアの重要な観光資源ともなっている。実は、盾も同じだ。盾はいままでもなくともと防御を旨とする武器であるが、その鮮やかな意匠が高く評価され、パプアニューギニアの現代芸術家が好んで題材として用いるものになっている。みんぱくの展示場にあるものは、現代芸術としての盾ではないが、なぜ現代芸術家にまで刺激を与え続けているのか、その美しさを見ていただければ納得いただけるのではないだろうか。

（丹羽典生）